

会山行報告書

通算山行NO	NO. 382	報告者	梶谷敏夫
年月日	2009年06月14日(日・曇)	2万5千	土肥
山名	猫越岳(1035m)北尾根(A隊)		湯ヶ島
体力度=3・普通 技術度=3・普通 道標=ない 駐車場=あり トイレ=ない 展望度=よくない 三角点等級=二等 点名=猫越峠			
<h1>ブナ党もぶっ飛んだ感動のブナ林</h1>			
コースとタイム	裾野市役所 6:30⇒なめり駅 6:40⇒下土狩駅 6:50⇒三島駅 7:10⇒猫越集落 8:35→猫越岳 11:30→手引ノ頭 12:15(昼食) 13:00 出発→つげ峠 14:15→三蓋山 14:35→滑沢峠 15:05→太郎杉 16:30		
標高差	上り=桑の木橋約380m～猫越岳1035m=約701m 下り=手引頭約1014m～滑沢林道終点600m=約414m		
参加者	丹沢ブナ党=梶谷敏夫、堀田雅子、岩本哲郎、常盤欣二、鈴木和郎、熊谷俊行、脇田信雄(7名) 麗峰=後藤隆徳、世古悦子、土屋弥生、山本正昭、峰田光江(一般)(5名)		



久し振りの麗峰との交流山行で、猫越岳北尾根の感動のブナ林に出会いました。

三島駅で後藤副代表の出迎えを受け、バスに乗り、猫越集落先の取り付き点で清掃登山主体のB隊と別れてバスを下車、後藤CLを先頭に登り出しました。

倒木の多い暗い人工林の中をリーダーは快調に登り、その後にぴたりと着いた鈴木・大阿闍梨が煽っているように見えます。そして、さすがにA隊参加の女性陣は強い、強い。少しも離れずついていきます。

油断すると先頭グループが藪の向こうに消えてしまいます。辺りには枯れたスズタケの桿が立っています。林床は、殆ど植生がない状態で、丹沢と同様の衰退状態です。シカ

の糞や樹皮食いの跡があり、伊豆にも相当数のシカがいるのでしょうか。

それまでの照葉樹と人工林の暗い森を抜け、標高900位から健康なブナが次々に現れ始めました。ブナを見ると思わず元気が出ます。

先に行く先頭グループを見やりつつ、周りを見回すと、ブナの凄い巨木(写真)が立っていました。一同、これを測らずに行けようか！リーダーに声を掛け、胸高周囲を計測することにしました。3.66m、樹齢およそ290年ほどです。ブナの樹齢は、胸高周囲をメートルで表し、それを円周率3.14で割って直径を出し、それに250を掛けて計算します。健康度も断然「5」、素晴らしいブナです



それから先はあっちにもこっちにも、ブナの巨木が次から次に現れ、ブナ党のメンバーから歓声が上がりっぱなしです。最大のブナはタコブナと呼ばれる胸高付近から四方に大枝を伸ばしている巨木で、胸高周囲4.72m、樹齢は376年、富士山の宝永大噴火前から生きてきた巨人（写真）です。健康度ももちろん「5」です。

集合写真を撮ったら、2人のブナ党のメンバーが欠けていました。ブナの写真を撮るのに夢中で遅れていたのです。

雪国のブナはまっすぐ伸びたすらりとした姿をしていますが、富士箱根ブナといわれる一帯のブナは盆栽型をしています。それにしても、ここのブナ林は凄い！見回すブナ林のあまりの見事さに、この

あたりで30分ほど時間を使ってしまいました。

ようよう腰を上げ、頂上に近い、馬酔木が繁茂する迷路のような平坦な地形を進みます。こうした所は本当にルートファインディングが難しいです。トランシーバーのやり取りでA隊も近いようです。お〜い、と声を上げると、返す声が聞こえ方向が定まりました。

10分ほどでA隊に合流、皆さん手に沢山のごみを入れたビニール袋を提げています。お疲れ様でした。もちろん、藪漕ぎのA隊はゴミなど一つもありませんでした。

手引ノ頭への分岐で全体が集合、写真を撮っていて遅れて来たブナ党の2人を合わせて手引ノ頭へと向かいました。小広い尾根をしばらく歩いて手引ノ頭へ到着、昼食です。初めて目にした圧倒的なブナ林の余韻に、ブナ党の会員から口々に「すごかったね〜。」という言葉が出ました。麗峰の方から美味しいおつまみやアルコールの差し入れがあり恐縮しました。

昼食を終え、ブナの巨木の前で全体の集合写真を撮り出発、リーダーを先頭に先ほどの分岐を目指します。

急な斜面を避けるように右方向へまわりかげんに進んで行きましたが、なかなか方向が定まりません。意を決して高みへと進むと、何と先ほど昼食を取った、見間違えようのな



い岩のような姿のカエデの所へ戻ってました。手引ノ頭の頂稜部をぐるりと回っていたのです。吹雪の雪山でのケース等、話には聞いていましたが、初めて経験したラウンド、伊豆の藪山恐るべし、侮るべからず！コンパスも出さず、安易について行っただけの自分を反省しました。2万5千の地形図を1万分の1の縮尺にして持っていたのに、自分がリーダーでないといつ横着を決め込んでしまいます。

進む方向を修正して分岐へと戻り着き、隊列を整えて一路下山へと向かいました。進む道はしばらくは等高線をなぞるようにほとんど水平に伸びています。リーダーは快調にどんどん進んで行きます。滑沢峠を過ぎてしばらくすると、沢にワサビ田が見えてきました。水がきれいなんですね。青々としたワサビの葉がとても瑞々しくきれいです。新鮮なワサビは辛さも柔らかく、甘さがあっておいしいとリーダーが教えてくれました。

関東にこんなまとまった見事なブナ林があったとは！驚きと感動の1日でした。ただ、林床はほとんど何もない状態で、土壌流出を起こしていないのは、丹沢と違って起伏が緩やかなためでしょうか。シカの生息状況を静岡県あるいは環境省等の行政が調べたデータはないのでしょうか。地元のハンター等にも情報を聞いて見たらいいのではないかと思います。

この青葉の季節は最高、紅葉の時期も見事でしょうね。再来を期して帰路に着きました。

※ 計測したブナの胸高周囲と樹齡（計測順、3.66mが①、タコブナが③）

②3.70m-295年、④4.36m-347年、⑤4.08m-325年、

⑥4.55m-362年、⑦4.14m-330年（手引ノ頭分岐）

